



# 輪郭のタイプと目のサイズ

班員 銀島美聖 工藤里桜 下野莉奈 福永麗音 指導者 早田先生 瓜生先生

## 1 序論

〔目的〕 客観的に見て、誰もが美人と感じる定義をつくるために、比率など数学を用いて美人の共通点をさぐる。

〔動機〕 世界で最も美しい顔100選 というものを見て、それに客観性を求めてみたいと思った。

## 3 研究の方法

(1) 1. パーツの平均をもとに顔をつくる  
2. この顔についてアンケートをとる  
3. アンケートの集計  
4. 数学的観点から美人の共通点を見つける

(2) 1. 作成した顔と輪郭が卵型の石原さとみを比較  
2. 顔を三等分  
3. 目の比率を比較

## 4 結果と考察

<輪郭のタイプ>

卵型が一番多かった

→日本人には輪郭が滑らかな人が多い

<目のサイズ>

大きめの方が多かった

→顔に占める面積が大きいいため小顔効果

<石原さとみと比べて>

作成した顔と近い値になった。

→無意識に美人という感覚が分かるのでは

## 6 謝辞

私たちの研究にあたりご協力してくださった2年生の皆さん、アドバイザーの田近様、早田先生、瓜生先生ありがとうございました。

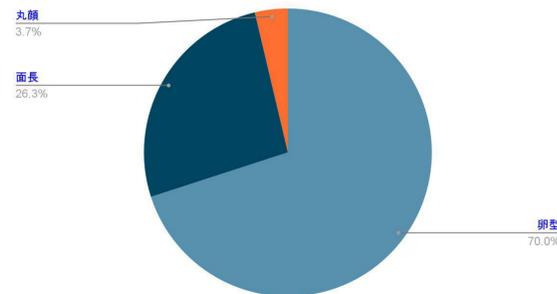
## 7 参考文献

<https://www.pasokonar.com/goldenratio/>

<https://self-lifting.jp/facial-outline-and-sagging-face/>

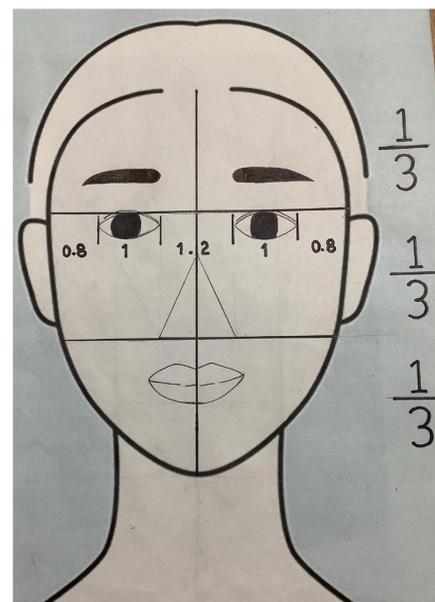
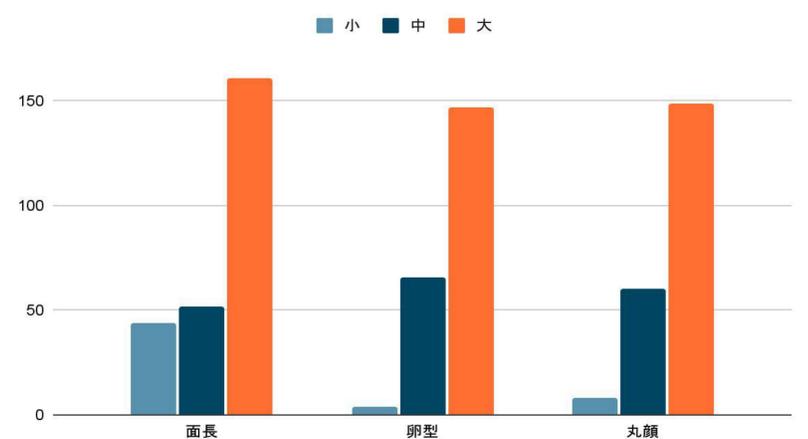
## 2 結論とまとめ

平均の目の時の顔の比較

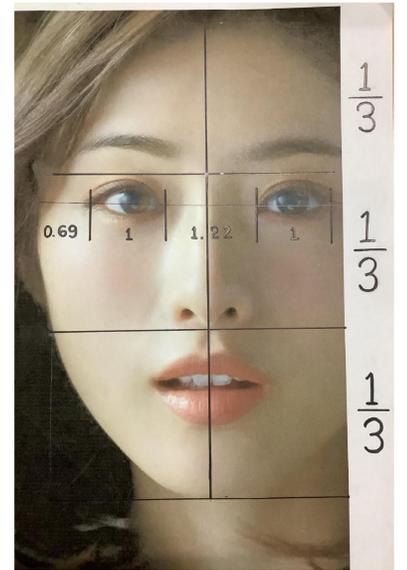


卵型が多かった  
卵型の特徴  
→顔の縦と横が1:1

目が大きいほうが多かった  
目を1とした時  
→目尻から 0.8  
→目の間 1.2



卵型 目大きい



石原さとみ

## 5 今後の課題

私たちが調べた範囲では美人に客観性を持たせることができなかった。よって、もっと多くの比較対象を作り、長期にかけてより多くのアンケートを採る。